

研修 だより

糸島市立一貴山小学校
平成27年8月26日（水）
学力アップ部

1年1組の子どもたち、西野先生ありがとうございました！！

【単元名】は を へ をつかおう

【本時の目標】

- (1) 助詞の使い方に興味・関心をもち、文作りを楽しむことができる。【関心・意欲・態度】
- (2) 助詞「は」「を」「へ」を使った文を進んで話したり聞いたりすることができる。【話すこと・聞くこと】
- (3) 助詞「は」「を」「へ」を使って簡単な文を作ることができる。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

【本時の主張】

- ① 単元を貫く言語活動の設定の工夫
6年生へ手紙を書く。
- ② 作った文が正しい文になっているか確かめたり、同じ言葉でも異なる文を作ることができることに気づいたりできるように、ペアで作った文を紹介し合う活動を設定する。

【本時の展開】

1 本時のめあてを確認する。

○「6年生へ伝えたいことを正しい文で手紙に書く」というめあてを確認し、伝えたいことが分かるように書くためには「は」「を」「へ」を正しく使うことが必要であることを確認する。

めあて

くっつきの「は」「を」「へ」をつかって、ぶんをつくろう。



2 「は」「を」「へ」を使って文を作る。

(1) 「は」「を」「へ」のカードを教室のいろいろなものにくっつけて文を作り、発表する。

(2) ～は～を～する。 ～は～へ～する。の2つの文に言葉を入れて文を作り、文型を確かめる。

○「は」「を」は名前言葉にくっついていて、動き言葉につながることを確認する。

○「へ」は方向や場所、行先へくっつくことを確認する。

(3) 言葉カードを使って、文を作る。

○主語、目的語の色別カードと考えた言葉を書き込めるカードを用意する。

(4) 作った文を交流する。

○意味の分かる文になっているか確かめ合う。

(5) 作った文をワークシートに書く。



3 本時学習を振り返る。

間違いを提示して助詞「は」「を」「へ」の使い方をまとめる。

まとめ 「は」「を」「へ」をただしくつかうと、つたえたいことがわかるぶんになる。

(西野先生の自評)

目標①について

子どもたちは、興味・関心をもって文作りを楽しむことができたと思う。

目標②について

話すことはおおむねできていた（80％）

目標③について

簡単な文を操作させてつくることはできたが、書くことは十分ではなかった。動き言葉は理解できていなかった。



【協議会で話し合ったこと ※学級経営のことも話していただきました】

【協議会より】

- 1時間の中で「話す・聞く・書く・読む」活動をバランスよく設定し、よく鍛えられている。
- 振り返りの時間の誤答の提示が良かった。学んだことを使って考えることで、子どもたちが自信をもって考えていた。
- 教師が子どもの学習プリントや発言にすぐに評価することで、子どもが意欲的に活動できていた。
- 子どもが操作するカードを色分けすることで、視覚的に捉えることができるようにされている。

【西野先生が日常の授業や生活で心がけられていること】

- 声をしっかり出させる（朝の会の歌・読むとき等）→ 一体感が生まれる
- 健康観察→短文で一人ひとりに出来事を言わせる。
- 体験を大切にしている。→印象深く覚えているので、それを言語化させる。
- ペア交流の反応のさせ方→同じです。違います。ホワイトボードを活用させる。
- すぐに答えが分かる児童には、難しい問題を当てて、答えさせる。



文字指導について

☆児童の持っている「話し言葉」に磨きをかけるとともに、「書き言葉」に移行させるステップが重要！

☆「知識の量を増やす」だけでなく、豊かなイメージや感情と結びつけて指導する。

☆言葉とその意味を、子ども達の生活体験とつなぎ、イメージをつかませる。

☆授業の流れのパターン

挿絵を見せる → それをもとに話し合う・体験する → 単語を抽出する
音節に分解する → 文字との対応 → 字形（筆順）練習

西野先生お疲れ様でした☆

私が中学校で講師をしていた23・24歳時に、識字学級に行かせていただきました。そこでは、おじいさんおばあさんが「孫に年賀状を書く」「電車に乗る」「自動車免許を習得する」といった一人ひとりの目標に向かって平仮名を学習されていました。文字と出会いながら意欲的に学習する姿勢に感銘を受けたことを覚えています。この姿と1年生の姿が重なって私の目に映りました。

ひらがなとは人と人をつなぐ大切なものです。西野先生は、子ども達に文字との出会わせ方を大切にされながら授業をされていました。他にも、平仮名の学習だけでなく他の授業に行かせそうな支援の在り方や、教具の工夫、学級経営のノウハウまでを1時間の学習や協議会でたくさん示してくださいました。これからも、西野先生の熟練された技を学ばせていただきたいです。